

住みたい 行きたい 帰りたい

やさしい絆のまち みつけ

スマートウェルネスみつけの実現

smart スマートウェルネスみつけ
WELLNESS MITSUKE

見附市長 久住時男

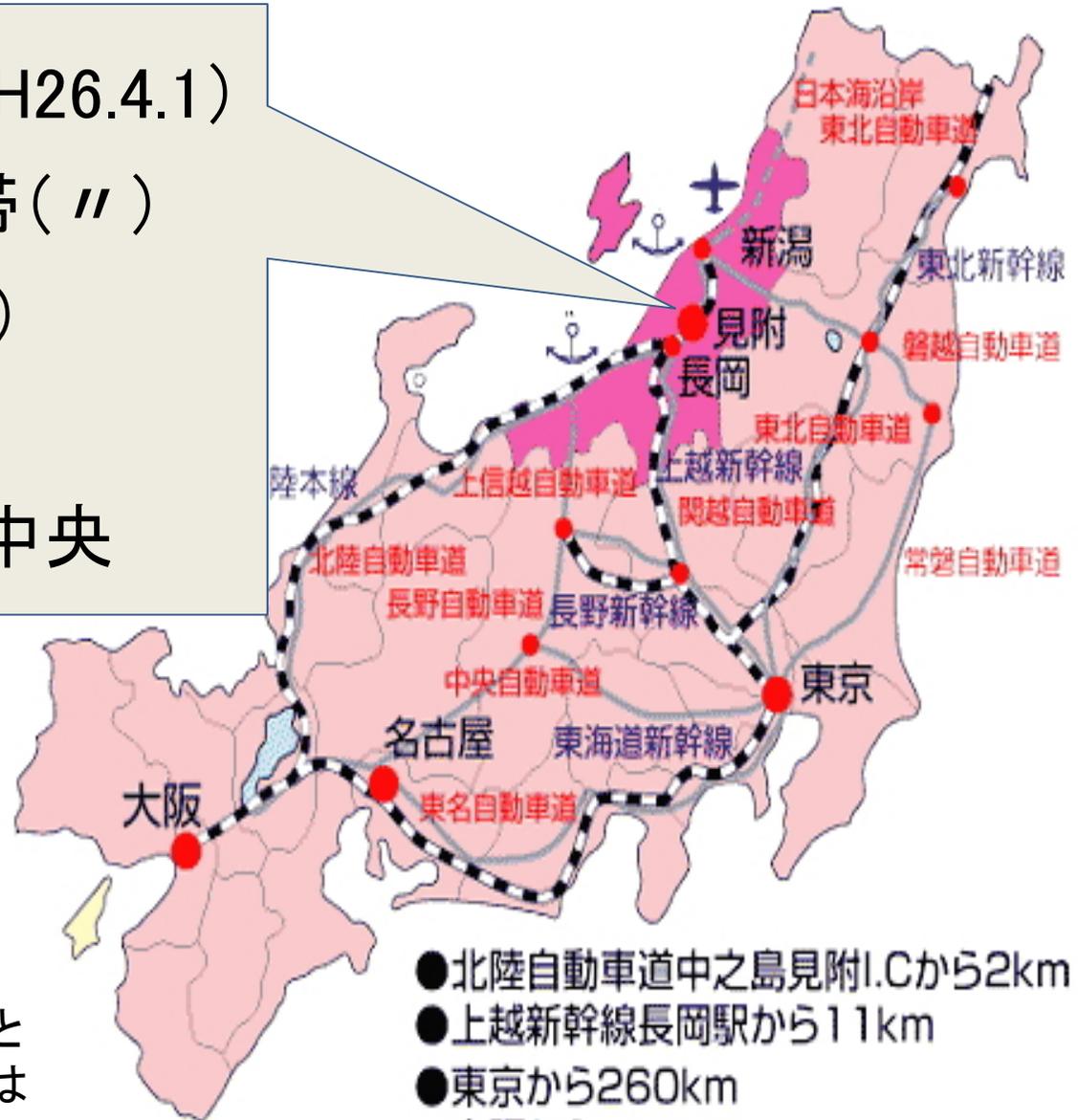
見附市の概況

- ・人口 41,835人(H26.4.1)
- ・世帯数 14,240世帯(〃)
- ・高齢化率 28.1%(〃)
- ・面積 77.96km²
- ・位置 新潟県の中央

市章



『ケ』を三つ組み合わせ、伝統と歴史の見附を表し、全体の丸は平和を象徴し、突出は限りない本市の飛躍を示しています。



- 北陸自動車道中之島見附I.Cから2km
- 上越新幹線長岡駅から11km
- 東京から260km
大阪から540km
名古屋から410km

少子超高齢・人口減少社会の到来

【見附市の人口：10年間の変化】

| 区分 | 人口 | 65歳以上人口 | 高齢化率 |
|-------|---------|---------|-------|
| 平成26年 | 41,835人 | 11,766人 | 28.1% |
| 平成16年 | 44,065人 | 9,951人 | 22.6% |

※4月1日現在

【将来推計から】

①少子超高齢・人口減少社会の到来

2040年の推計

■人口の減少 26%減 4.2万人 ⇒ 3.1万人

■高齢化率の延伸 10.8ポイント増

28.1% ⇒ 38.9%

②社会保障費の負担増(個人、国、地方、企業)

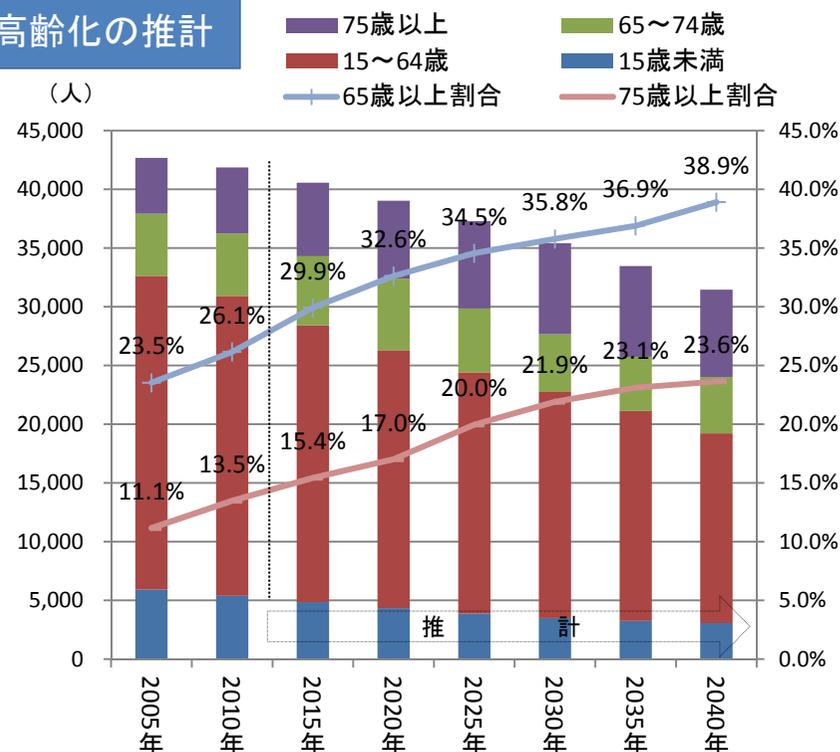
■給付総額の増加(平均寿命の延伸)

■サービス内容の高度化と多様化



健康施策の推進が必要

人口と高齢化の推計



いきいき健康づくりの4本柱

いきいき健康づくり計画 ⇒ **健幸づくり推進計画**

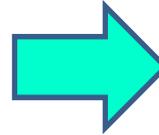
食生活



生きがい

平成16年3月初期計画
平成20年3月改定
(食育推進計画包括)

改訂



見附市健幸づくり推進計画
歩くを基本にしたまちづくりに関する基本方針



平成26年3月

見附市

smart wellness m
26-1

検診

運動

平成26年3月策定
**いきいき健康づくり計画を包括した
健幸まちづくりを総合的に進める
計画**

食生活

食がいかに大切か 知っているまちプロジェクト

みつけ食育目標

- ① 主食はごはんでしっかりと（玄米と雑穀米がおすすめ）
- ② 地元でとれる旬の減農薬野菜をもっと食べよう
- ③ 毎日朝食をとりましょう

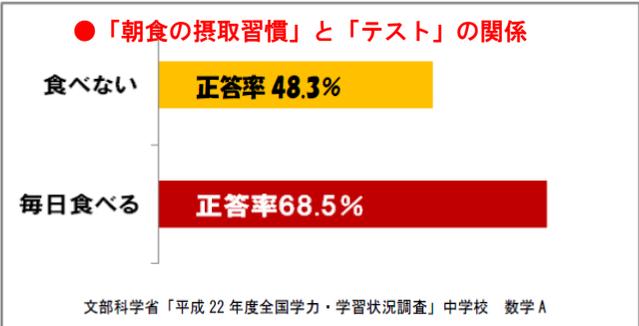
日本型食生活のすすめ



主食のご飯をしっかりと食べ、主菜、副菜を組み合わせる。

食育講演会

「朝ごはんが人生が変わる」
～最新脳科学が明らかにした朝ごはんの脳とのよい関係～



講師 川島 隆太氏
東北大学 加齢医学研究所教授

玄米入りごはん・七分つきごはん

給食に玄米入りごはんと七分つきごはんを導入
・栄養価のアップ・「よく噛む」効果



玄米を2割混ぜ込んだごはん

地消地産

学校給食で積極的に地元産品を使用
地元での消費で地元の生産を支える仕組み。



学校給食（生産者との交流の様子） 4/27



マクロビオティック食体験講座

検診

健康の駅

「健康の駅」を市立病院内に設置



各種測定や体験の他に、保健、医療、福祉、生活、経済、心に関する相談や情報提供を受けられる。

平成11年度～

小児生活習慣病予防事業

新潟大学医学部小児科との連携事業
(小児の血圧基準「見附スタディ」の確立)

小学4年生、中学1年生の約33%が生活習慣病予備群(H25年度)

小学校4年生と中学校1年生を対象に実施。血圧、血中脂質、肥満度を検査。

【小4年生時(H21・22)と中1年生時(H24・25)の変化】

- n=547 異常なし31人増
- 異常無し 小学4年生336人⇒中学1年生367人
- 異常あり 小学4年生211人⇒中学1年生180人

特別授業

← 参観日に合わせて、市保健師と小学校養護教諭が協力して健診の後に特別授業を実施。



平成16年度～

生きがい

ハッピーリタイアメント・プロジェクト

H22年度 活力協働まちづくり推進団体表彰の優秀賞を受賞

～中高年になって、ますます元気に～
心身ともに健康いきいきとした人生を謳歌する

市民グループ「悠々ライフ」が中高年の仲間づくり、生きがい探しを応援

合言葉は、「頑張らない 競わない 出入りが自由」

ピンポン



木目彫り



べと人形づくり



里山を歩く



毎月約20のメニューで活動278 事業開催。のべ 5, 442人が参加(H25年度)

市民の活躍の場づくり

ナチュラルガーデンクラブ

会員119名(H26)
イングリッシュガーデンの日常管理を行う。



本格的な英国式庭園

平成21年6月フルオープン



H25年度入場者 134,125人

園芸福祉

平成20年度～

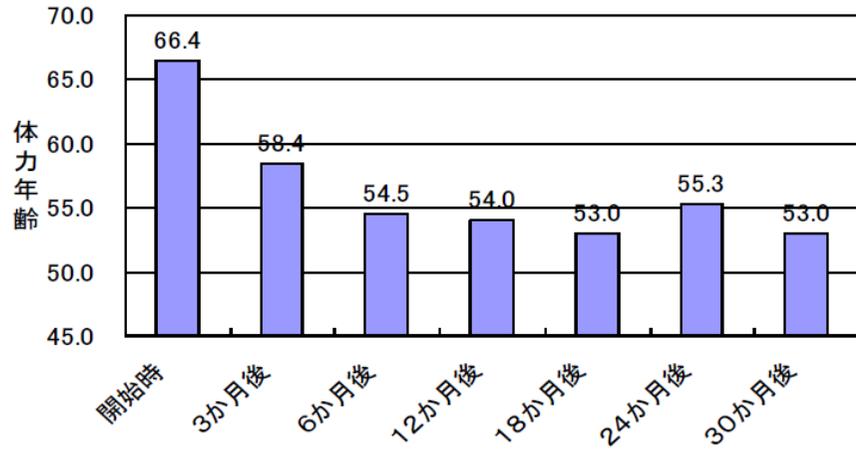
花と緑のまちづくりとは「こころの健康」

運動

健康運動教室の効果

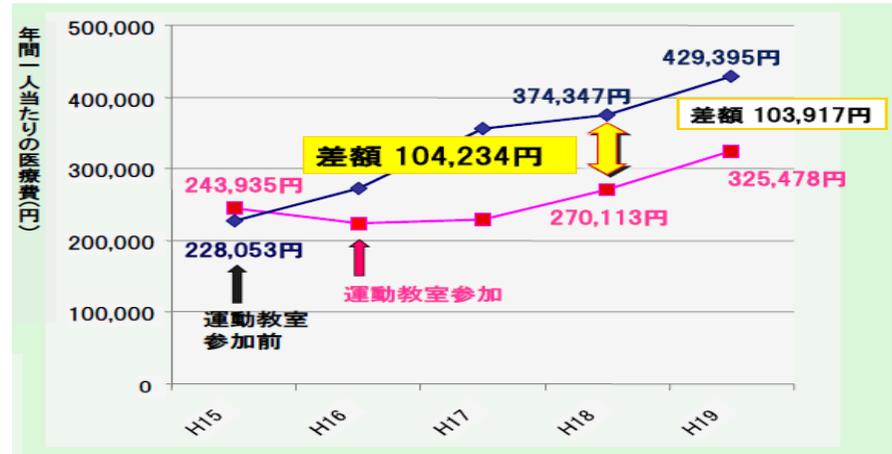
体力年齢の若返りと医療費の抑制効果を実証

体力年齢の若返り



約15歳の若返り

医療費抑制効果



約10万円の抑制効果



教室内の様子

参加者数

個別運動プログラム
プランシート→

あなたの運動プログラム

身体活動量の目標 (歩数) 毎日歩きたい歩数(歩) × 10分(回数) × 10分(歩み数) × 10分(歩み数) = 目標歩数

目標歩数: 18 + 7 + 15 = 40

身体活動量の目標

| 活動 | 歩数 | 歩数 | 歩数 |
|-----|--------|--------|----------|
| 歩行 | 84,000 | 24,500 | 90 ~ 117 |
| 自転車 | 12,000 | 3,500 | 3 ~ 5 |

個別運動プログラム

| 項目 | 内容 | 回数 | 時間 | 歩数 |
|------|--------|----|------|---------|
| 基本運動 | ウォーキング | 2 | 10分 | 18,000 |
| | ジョギング | 2 | 10分 | 18,000 |
| | サイクリング | 2 | 10分 | 18,000 |
| | 水泳 | 2 | 10分 | 18,000 |
| | その他 | 2 | 10分 | 18,000 |
| | 合計 | 10 | 100分 | 180,000 |

毎日歩きたい歩数(歩) × 10分(回数) × 10分(歩み数) × 10分(歩み数) = 目標歩数

目標歩数: 18 + 7 + 15 = 40

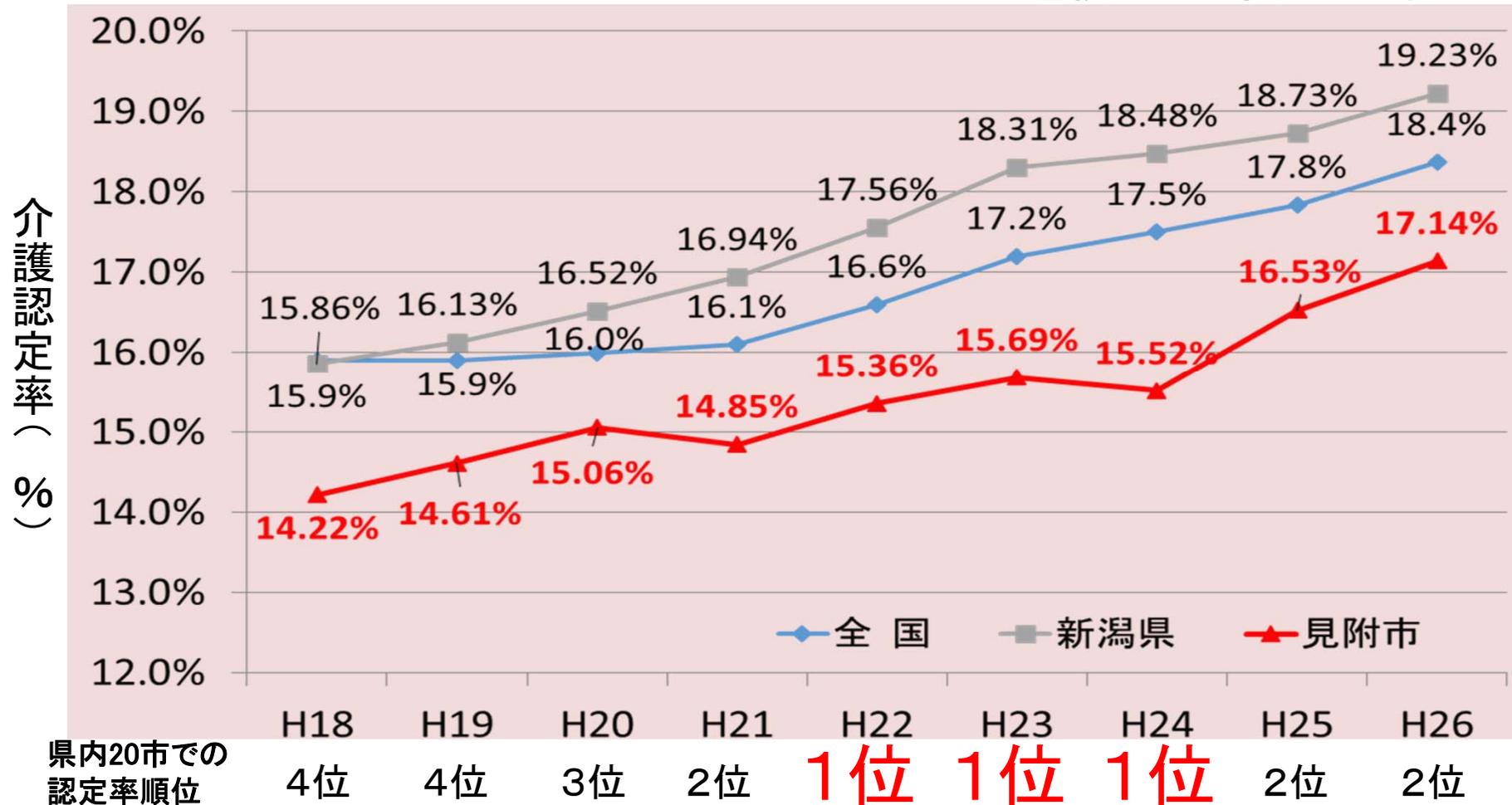
H26.3月末現在1,425人参加中(目標 2,000人)

見附市の介護認定率

これまでの取組みの結果として

全国平均、県平均よりも低い介護認

H22～H24は3年連続1位(県内20市中)

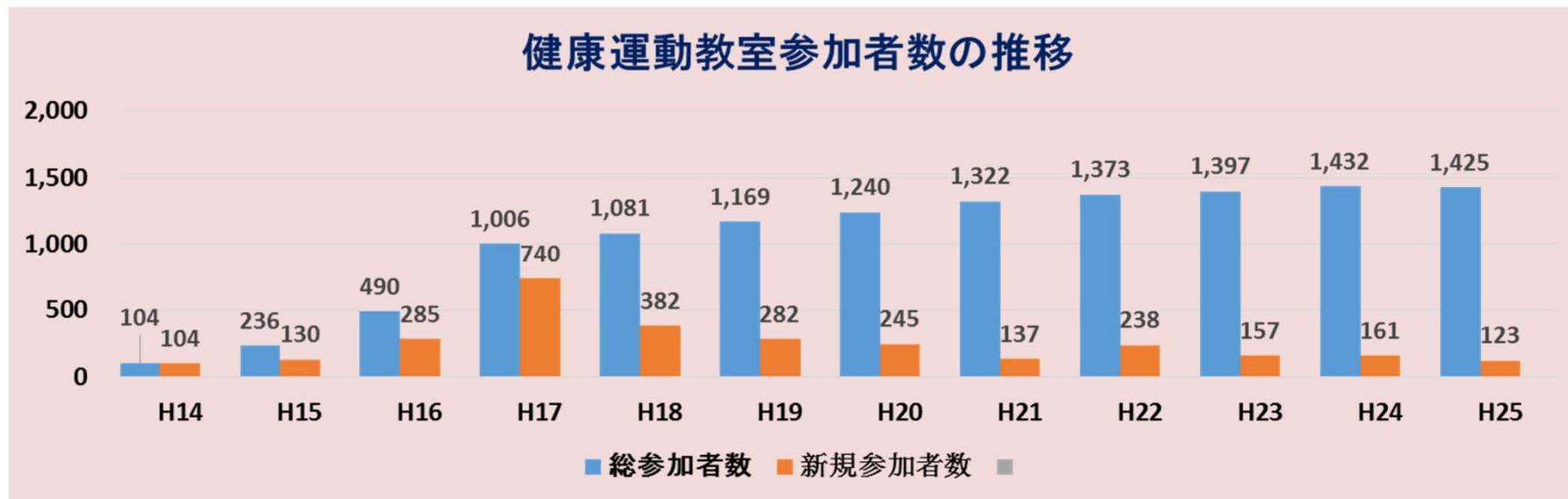


これまでの健康施策の課題

1. 興味を示さない住民に対する効果的な動機付け（**動機づけ対策**）
2. 継続参加者に対する支援策の充実（**継続意欲対策**）
3. 健康維持は社会的な貢献であることへの理解（**健康意識の変革**）

これまで健康運動教室で実施した参加者対策

- ・参加しやすい環境整備 会場数の増加、新タイプの教室開設、
- ・インセンティブ付与 新規・継続者へのインセンティブ（地元商店街の商品券、歩数計プレゼント等）
- ・イベント企画、交流機会 健康サポートクラブと連携のウォーキングツアー、商店街ナイトウォーキング



エビデンスが確認されている健康運動教室でも参加者は約1,400人から伸び悩み

今の事業効果が限定的！

より多くの住民が健康にするためには・・・



健康に関心が薄い市民でも、自然と健康になれるまちづくりの仕掛けが必要

Smart Wellness City 首長研究会

健幸とは…

個人が健康、かつ、生きがいを持ち、安全安心に豊かな生活を営むことができること

「健幸」をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を連携しながら実行し、新しい都市モデル「Smart Wellness City」を目指すため、志を同じくする全国の首長が集まり、平成21年11月に発足(会長:久住見附市長)

行政課題の研究・実践から政策提言へ!

Smart Wellness City 首長研究会・発起人会共同宣言(抜粋)

我が国の超高齢・人口減社会によって生じる様々な社会課題を、自治体自ら克服するため、健幸をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を連携しながら実行することにより、最新の科学技術や科学的根拠に基づく持続可能な新しい都市モデル「Smart Wellness City」の構築を目指す。

平成21年11月23日
平成27年2月現在会員

Smart Wellness City 首長研究会・発起人会共同宣言 7県9市
30都道府県59区市町



<スマートウェルネスシティのゴールイメージ>



<スマートウェルネスみつけのゴールイメージ>

明らかになった市民のタイプ

「健康アルゴリズムによる研究」(H22)からの市民のタイプ分け

調査対象 : 30~70歳代の市民 n=733

運動習慣 : 週5回以上、10分以上のウォーキング又は運動を実施

| | 運動未実施 (計64.8%) | | | | 運動実施 |
|-------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|
| | タイプ1 (18.2%) | タイプ2 (27.1%) | タイプ3 (8.0%) | タイプ4 (11.5%) | タイプ5 (35.2%) |
| 運動の意思 | 意思なし | 意思なし | 意思あり | 意思あり | — |
| 美容維持 | 関心なし | 関心あり | 関心なし | 関心あり | |

【現状】: 健康行動の無関心層(運動未実施)が65%

- ①運動習慣があるのは35%のみ (タイプ5)
- ②65%は継続的な運動の未実施者
- ③運動の意思はあるが出来ていない市民が20% (タイプ 3と4)
- ④残りの45%は運動実施の意思もない (タイプ 1と2)

【解決に向けて】 普段の生活で自然と必要な運動量が満たされるまちづくり

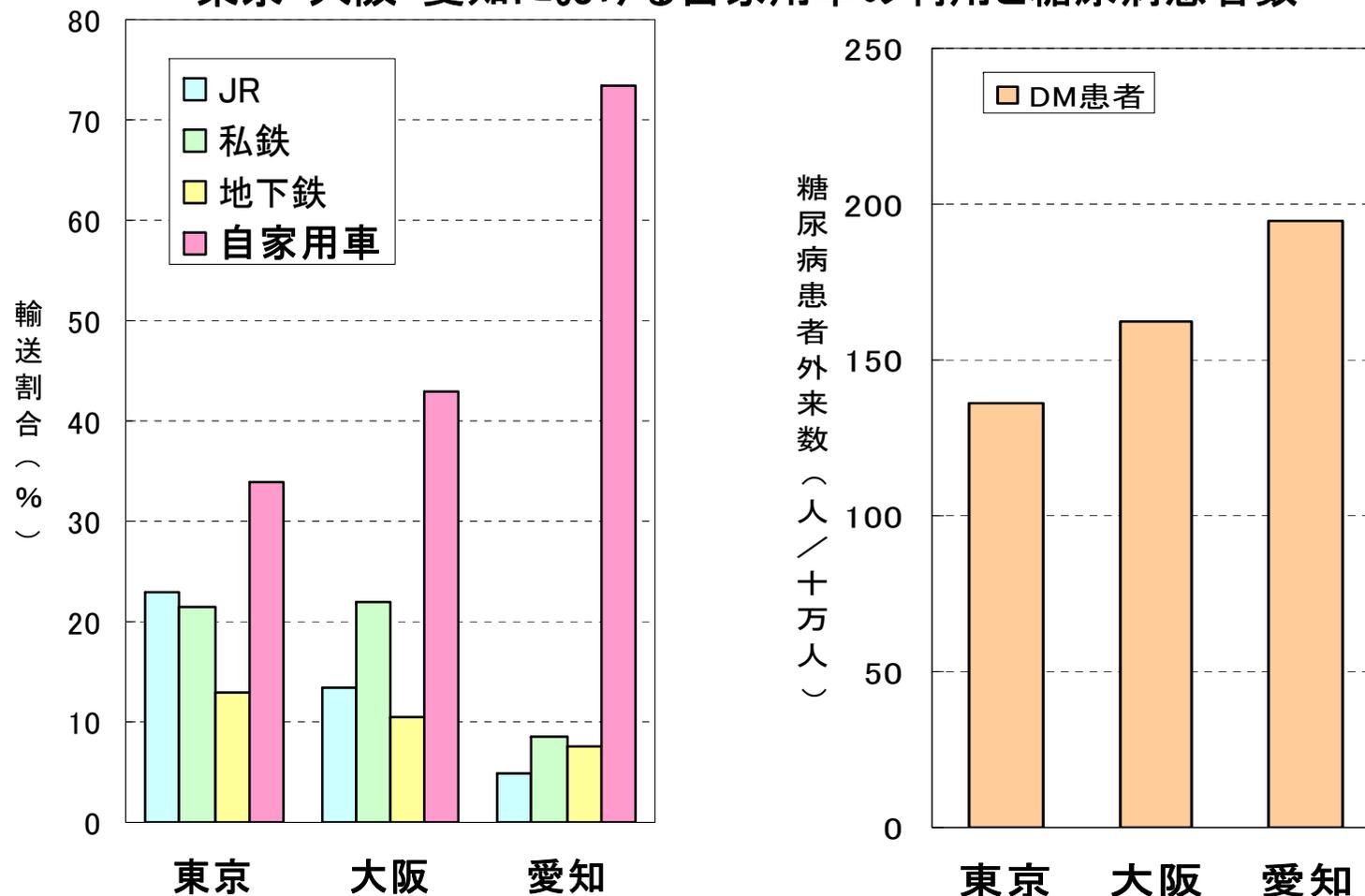


歩いて暮らせるSmart Wellness City

健康寿命の延長と 社会保障制度の持続を可能とするための課題

生活習慣病の発症には、個人的因子だけではなく、地域の近隣環境因子も一定の影響がある

東京・大阪・愛知における自家用車の利用と糖尿病患者数



(為本浩至:肥満と糖尿病, 8: 923, 2009より引用)

「歩く」まちづくり

【歩くことは足し算】

近年の研究結果から、まとめて歩いて、分割して歩いて、歩くことによる効果は同じことが判明！



いつも行く近所のコンビニや公園まで歩くだけでも歩数が増える！



30分継続

=



+



+



10分×3回



☆これまでは車優先のまちづくり

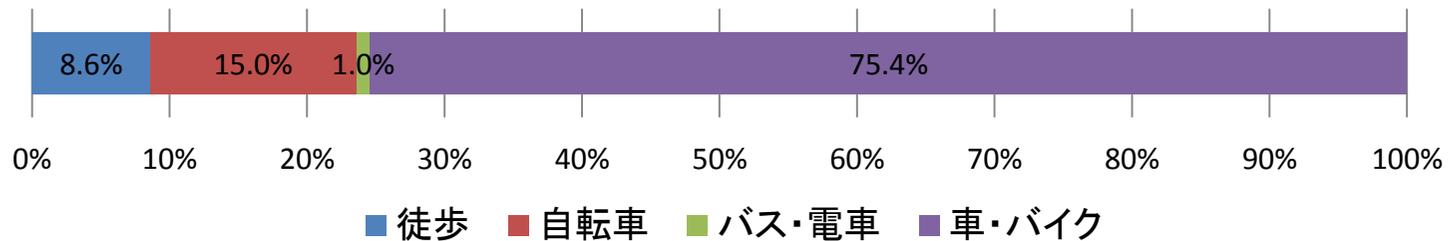
その結果・・・

■市民の主な移動手段は「車・バイク」が75%以上を占める

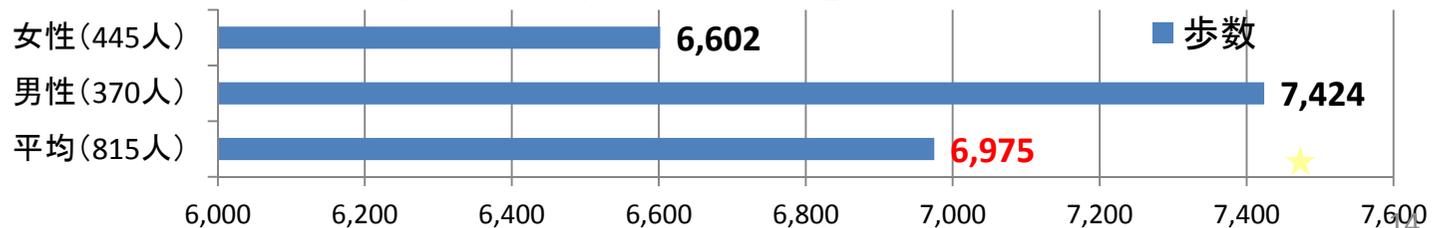
■市民の平均歩数は約7千歩

※生活習慣病予防のため、厚生労働省の推奨する1日の歩数は8千歩～1万歩

主な移動手段



歩数



「SWC総合特区住民調査 2012」(対象:40～70歳代813人)

SWC施策を進める7つのポイント

①社会参加(外出)できる場づくり

【ハード】

人の交流拠点

外出の目的地

ネーブルみつけ



H25年度利用者 520,197人

イングリッシュガーデン



H25年度入場者 134,125人

ふるさとセンター



地域コミュニティの拠点
H25年度 市内8ヶ所

道の駅 パティオにいがた



H25.8月23日オープン
入場者数100万人達成(H26.9.5)

市民の「たまり場」

市民ギャラリー



H27年度オープン予定 ※図はイメージ

コミュニティ銭湯



【ソフト】生きがい・社会貢献

悠々ライフ



H25年度 278事業
のべ5,442人参加

ナチュラルガーデンクラブ



会員119名(H26)
イングリッシュガーデンの日常管理

地域コミュニティ



H26.3月 市内8地域で設立
市人口の約61%をカバー

共創郷育 教育コーディネーター



学校に関わった地域の人々の数
701人(H17)→6,370人(H25)

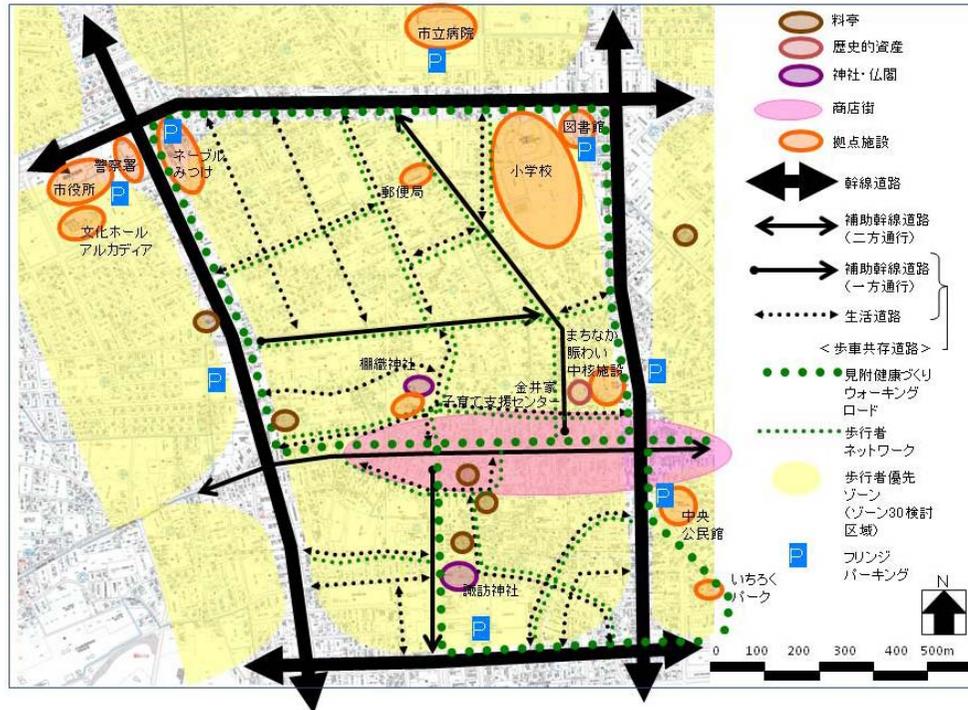
健康サポートクラブ



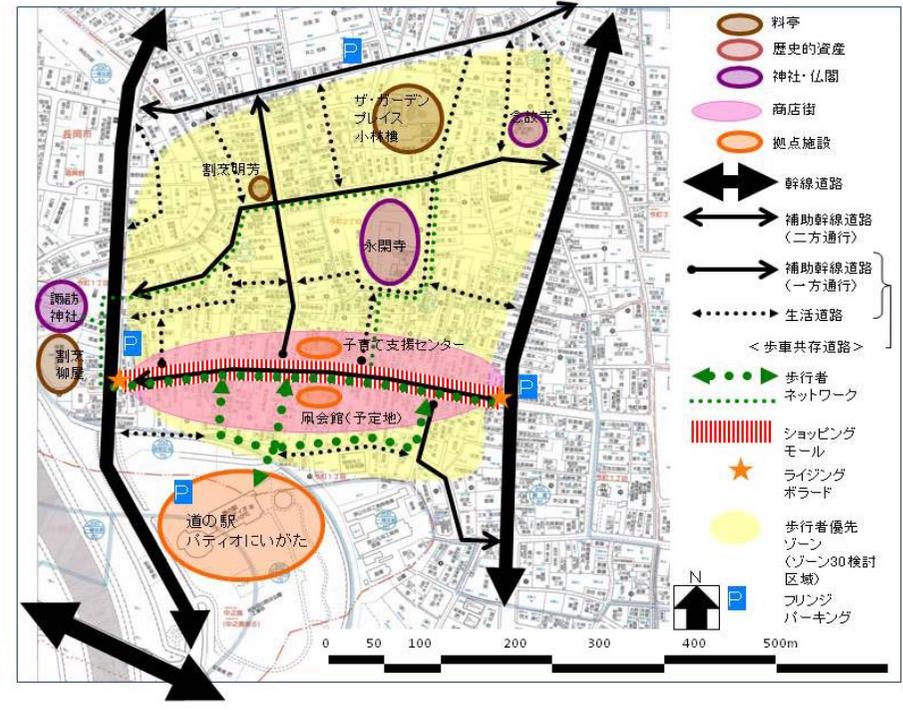
H25年度 ナイトウォーキング* 841人
早朝ラジオ体操877人参加

②中心市街地を中核とした賑わいづくり

見附市街地のまちづくりの方向



今町市街地のまちづくりの方向



都市機能の集積



運動施設



医療機関



福祉施設



商店街



公共施設

都市機能が集積し、歩いて過ごせる楽しくて便利な市街地

③歩かされてしまう快適な歩行空間の整備

(例)

- 歩行者優先へ転換
安全確保、路面表示
- 歩く楽しみを演出
景観整備、健幸ベンチ等
- ウォーキング・サイクリングコースの整備
広域コース 5コース
ウエルネスコース 14コース
わくわくコース 25コース

- レンタサイクル
市街地での日常的な移動手段
公共施設等7か所で貸出し・返却
※貸出数：H22開始 358回→H25 621回

歩行者と自転車の優先



ドライバーへの注意喚起



歩行者等への路面表示



自転車通行帯の表示



レンタサイクルの整備



市内各所に健幸ベンチ



コースマップ

拠点に健康遊具



④過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備

公共交通の整備

中心市街地 ⇔ 既存集落・周辺地域
 居住エリア ⇔ 各種サービス施設を連結

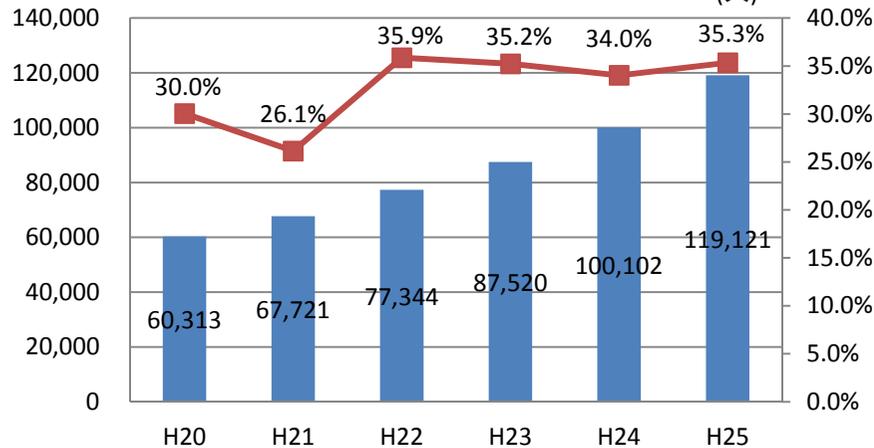
- ・路線バス(広域)
- ・コミュニティバス(市街地)
- ・デマンドタクシー(郊外)
- ・コミュニティワゴン(地域コミュニティ)

生活の足の確保

コミュニティバス



コミュニティバス利用者数と収支率



H16実績(7月~)14,472人(収支24.4%)⇒H25実績119,121人(収支35.3%)

H26年度見込み 130,000人

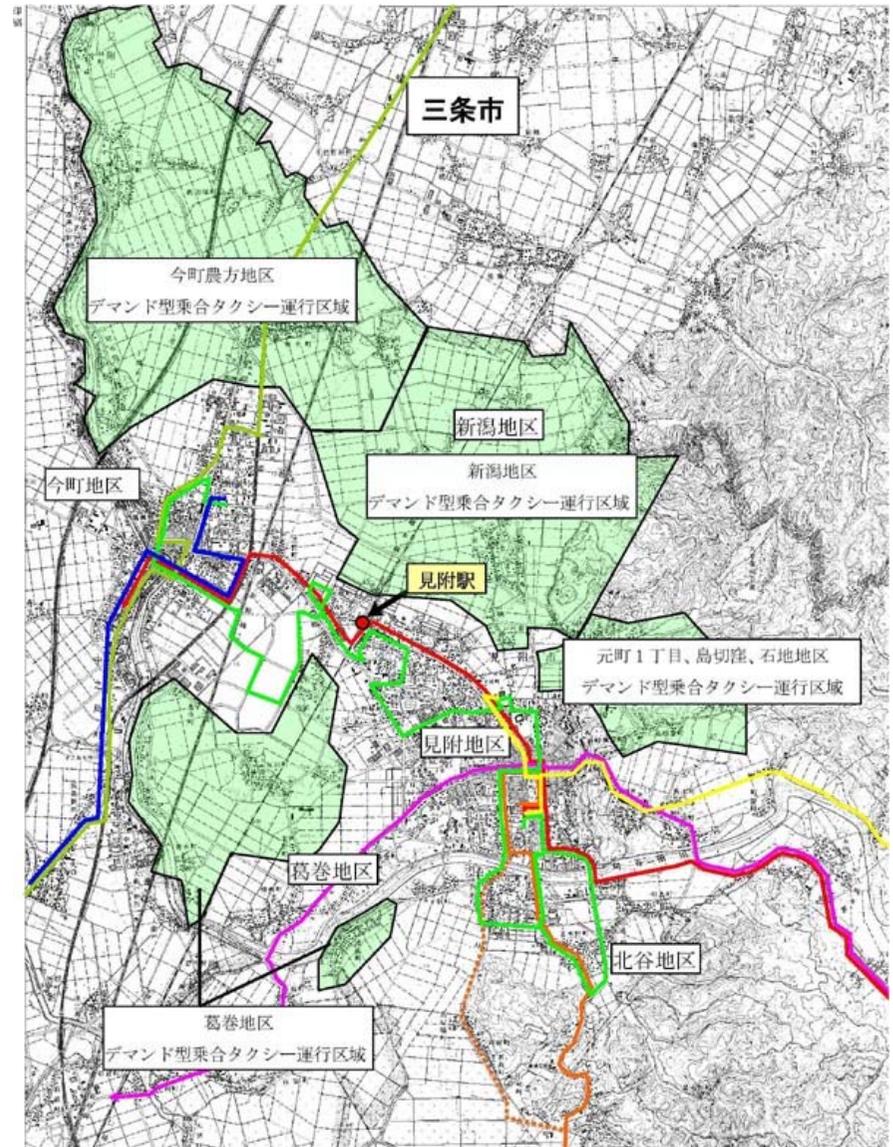
コミュニティワゴン



デマンドタクシー



路線バス



⑤まちをゾーニング

特定地域再生計画(H25) 地方都市の持続のためのまちづくり基本方針を策定

健幸都市実現を支える都市のあり方研究会



内閣官房、国交省、経産省、及び農水省の課長、室長及び有識者からなる研究会

【施策ポイント】

超高齢化・人口減社会に対抗できる「歩いて楽しめる市街地」と「持続可能な周辺地域」を整備

1. 適切な居住密度を維持する市街地ゾーン設定
 - ①居住を推進するゾーン
 - ②生活機能の集約を誘導するゾーン
 - ③既存集落の地域コミュニティを再編するゾーン
2. 中心市街地、拠点を結ぶ公共交通
3. 中心市街地の賑わい回復

誘導施策の例

■転入促進

転入・定住促進のため転入者の住宅取得を助成

■住み替え促進

中古住宅の活用・住み替えを助成

■リフォーム補助

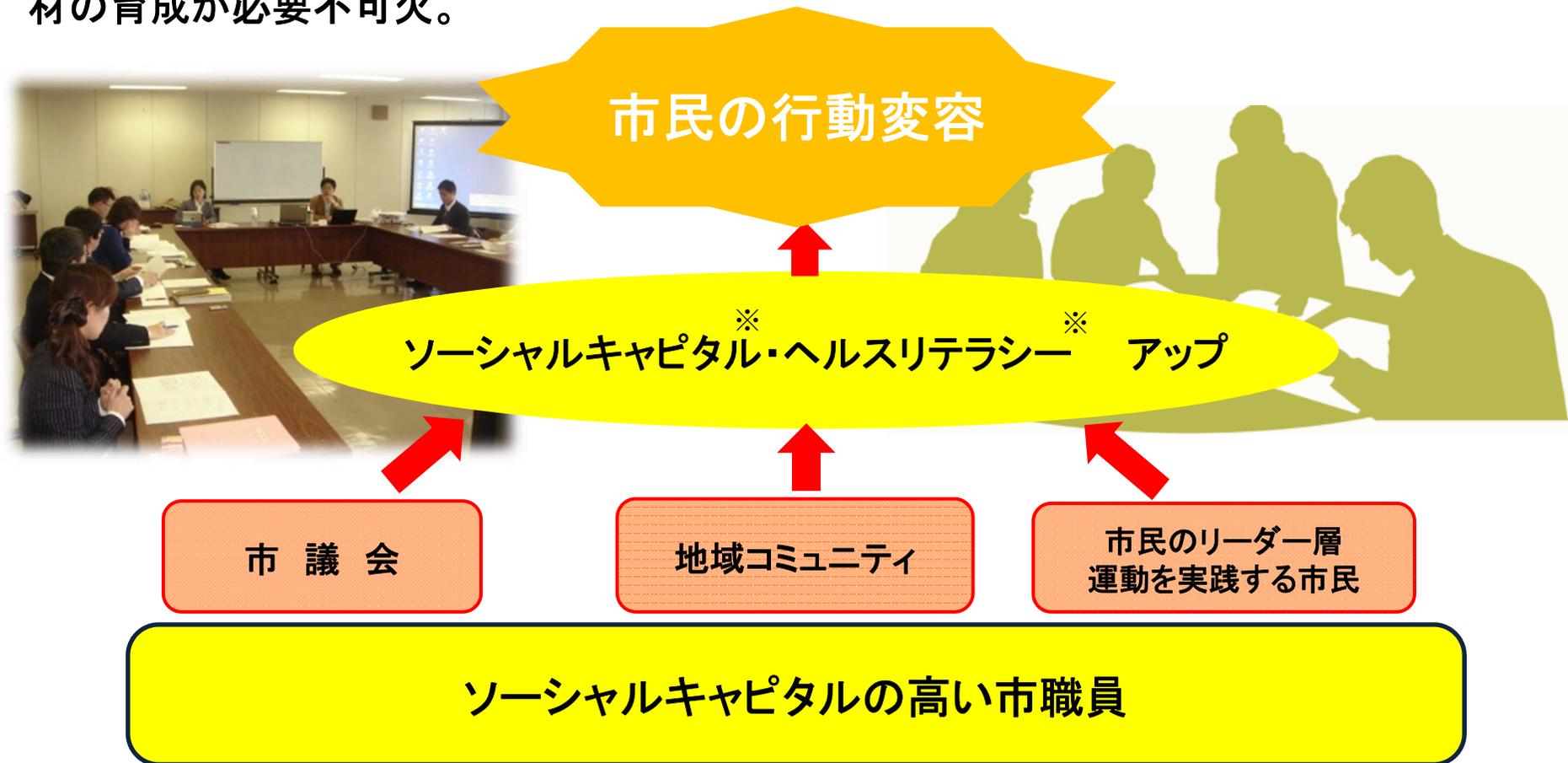
「CASBEE見附基準」に適合するリフォームを補助
(建物の環境性能は居住者の健康に影響)

優良住宅地の造成イメージ



⑥ S W C 推進のカギは人材

スマートウェルネスみつけの推進には、“健幸”を理解し、健康に望ましい行動をする市民を増やす必要がある。
そのためには、市民の健康づくりを啓発・サポートする市職員をはじめとした人材の育成が必要不可欠。



※ソーシャルキャピタル: 社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念

※ヘルスリテラシー: 健康課題に対する判断を行うために必要な情報やサービスを入手し、処理する能力

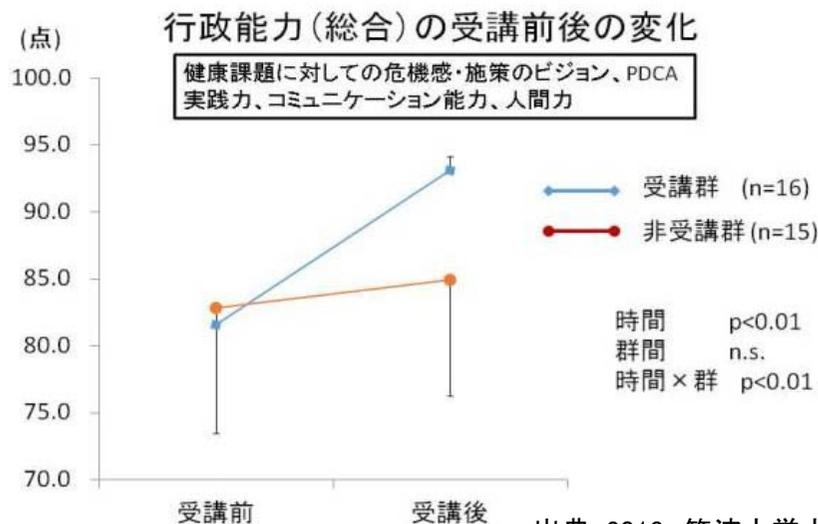
人材育成の例

職員意識を改革!

①【久野塾】 中堅職員向け 3年間で延べ24人

行政能力向上・・・危機感、施策のビジョン、実践力、コミュニケーション能力、人間力、イノベーター能力向上・・・質問力、観察力、実験力、ネットワーク力

久野塾での発表



久野塾の成果
行政能力UP

出典: 2013 筑波大学大学院久野研究室

②【SWC 勉強会】 係長以上の全職員+関連業務担当者

市長からSWC関連施策の方向性、将来のまちづくりについて直接講義

③【政策自慢合戦】 近隣3市共同(見附・三条・十日町) 職員の伝える能力、プレゼン能力の向上

④【職員の行動変容 通勤手段】

駐車場使用料を改定に合わせ、徒歩又は自転車通勤への行動変容を誘発

※1. 通勤距離2km以内の職員の変化(対象者155名)

82名(H23)⇒125名(H24): 全体の81%が徒歩等に行動変容

※2. 職員全体360名の変化105名(H23)⇒174名(H24) 69名増

通勤風景



健幸に関する条例と計画

条例と計画で後押し！

【健幸に関する条例の制定】 自律的に歩くことを基本としたまちづくりを目指した条例を制定

①『見附市健幸基本条例』（平成24年3月）

○市民一人ひとりの健幸の実現を目指す市の決意表明

②『見附市歩こう条例』（平成24年3月）

○歩くことを基本としたまちづくりの基本理念 全国でも先進的条例

③『見附市道の構造の技術的基準を定める条例』（平成24年12月）

○街区内道路は歩行者・自転車優先の道路構造へ

【健幸に関する計画の策定】

①歩いて暮らせる都市実現のために都市のスプロール化を抑制する計画（平成26年2月）

○超高齢化人口減社会の先駆的なモデル都市構築を目指す

②健幸づくり推進計画（平成26年3月）

○健幸なまちづくりを体系的に推進

○「健幸都市インデックス」による指標設定

※健幸都市インデックス

総合特区事業の一環として開発した「自治体型共用健幸クラウド」により、住民の健康、都市環境、コミュニティの状況などのデータを基に、健幸都市の構築度合いを評価する指標



⑦特徴的な取組み 地域コミュニティの構築と協働のまちづくり

地域住民が主体となり地域づくりを行う仕組み。概ね小学校単位(H18から)

自助・共助・公助

地域コミュニティ(共助)

健康、防災、子育て、高齢者支援等

◎地域の確かな絆づくり

◎顔の見える関係を再構築

地域コミュニティが結成地区は
ソーシャルキャピタルが高い！

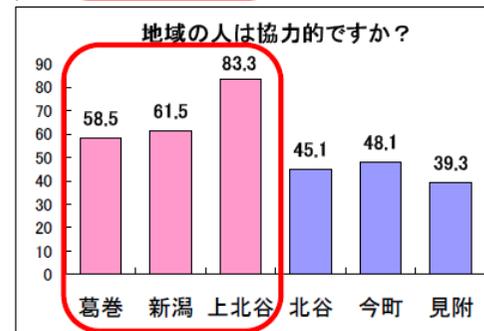
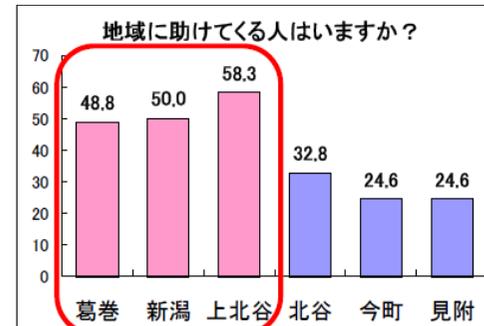
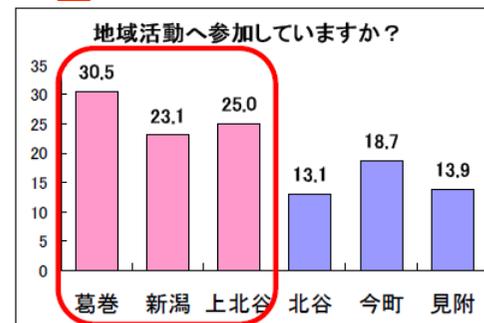
※ □ は地域コミュニティ組織済



防災力アップ



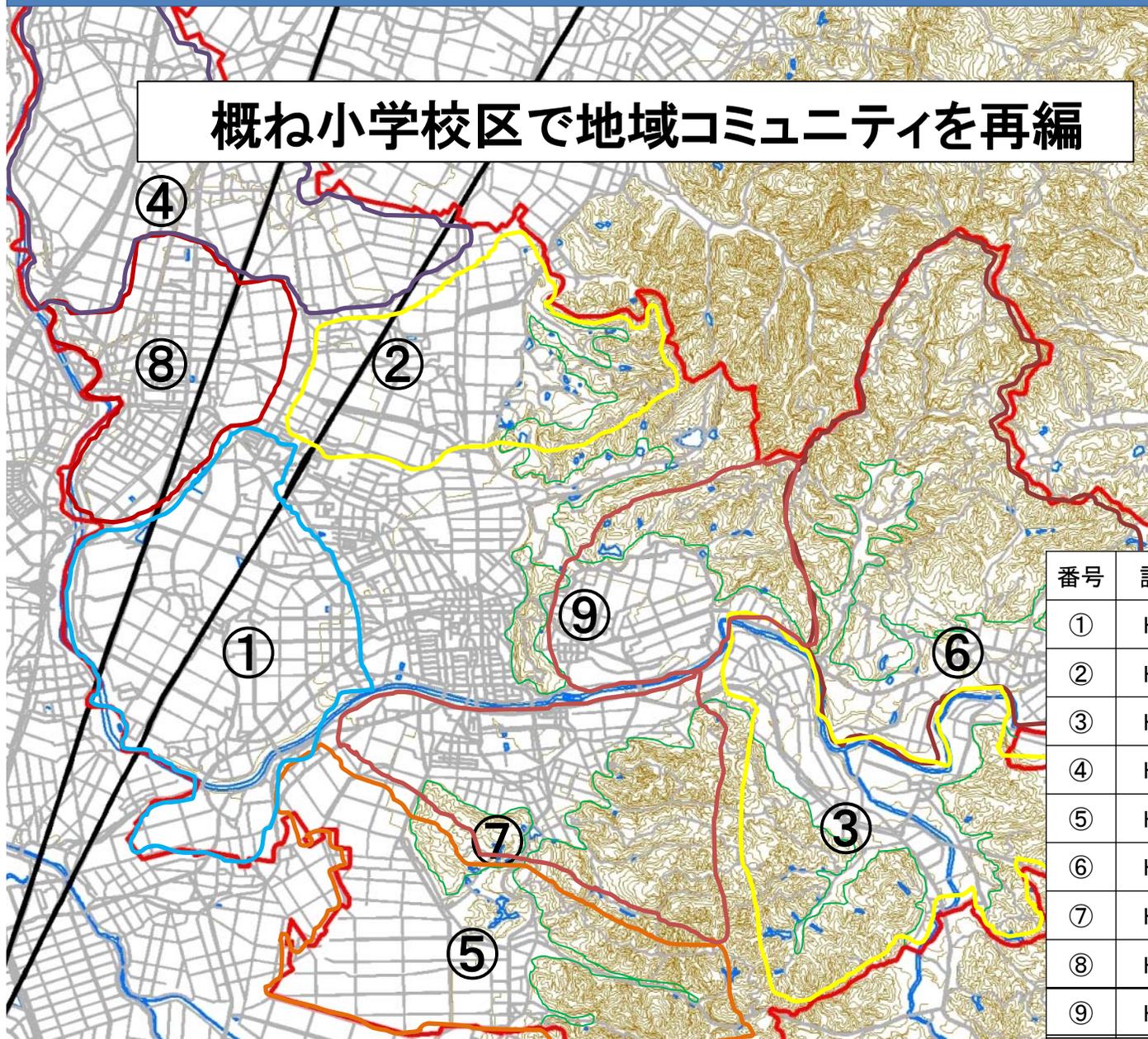
防犯



ソーシャルキャピタルの高いまちへ

地域コミュニティ組織の設置区域

概ね小学校区で地域コミュニティを再編



コミュニティワゴン

| 番号 | 設置 | コミュニティ区域 | 人口 |
|----|-----|-----------|--------|
| ① | H19 | 葛巻地区 | 7,205 |
| ② | H20 | 新潟地区 | 1,929 |
| ③ | H21 | 上北谷地区 | 1,384 |
| ④ | H21 | 今町田園地区 | 1,485 |
| ⑤ | H22 | 北谷南部地区 | 1,273 |
| ⑥ | H24 | 見附第二小学校地区 | 709 |
| ⑦ | H24 | 北谷北部地区 | 4,087 |
| ⑧ | H26 | 今町町部地区 | 7,400 |
| ⑨ | H26 | 庄川平地区 | 1,300 |
| | | 計 | 24 |
| | | | 26,772 |

各地区1年以上の準備期間を経て人口の約64%をカバー

SWCの7ポイント+3つの観点

基礎となった特定地域再生計画策定(H25)での研究 『地方都市の持続』のための基本方針を策定

1. ゾーン設定と機能別の誘導 中心部は歩いて暮らせるまちづくり

①市街地を機能別に集約

居住誘導ゾーン、生活機能誘導ゾーン……立地適正化計画に基づく誘導

- ・一定の人口密度を維持 30人/ha
- ・インフラ整備・維持更新エリアの拡大抑制、生活サービス機能の集中

②持続可能な集落地域づくり 総人口の1/4が集落地域に居住する現状

拠点を中心としたエリア設定と機能集約……コンパクトビレッジの形成

- ・日常生活に必要な機能を維持
- ・文化伝統の継承、学校の存続、消防団の維持

2. 地域包括ケアシステムの構築

自立生活の支援のもと、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができる体制を整備

- ・地域包括支援センターの増設 2カ所⇒4カ所
- ・まちなかに介護付き高齢者住宅の設置
- ・市立病院・老健施設を中心とした在宅の医療・介護の体制強化

3. 総合的な住み替え施策の推進

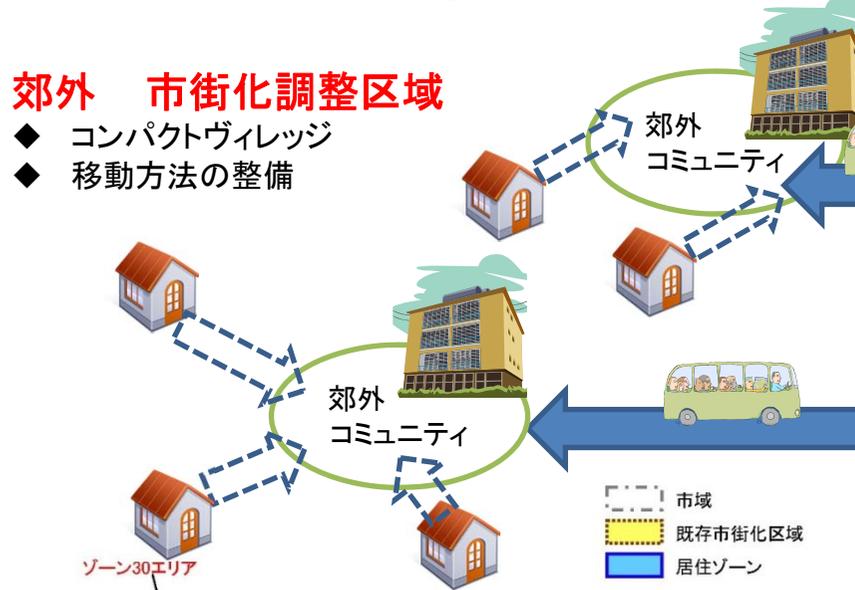
世代別のライフスタイルに応じた住居の住み替え、転居を誘発する住宅施策

- ・ひとり暮らし高齢者を中心市街地の、共同住宅や介護付き高齢者住宅に誘導
- ・既存集落の空き家は子育て世代への借家
- ・住み替え支援制度の充実、地方版のリバースモーゲージの確立

国の「地域活性化モデルケース」に選定された見附市の提案

郊外 市街化調整区域

- ◆ コンパクトヴィレッジ
- ◆ 移動方法の整備

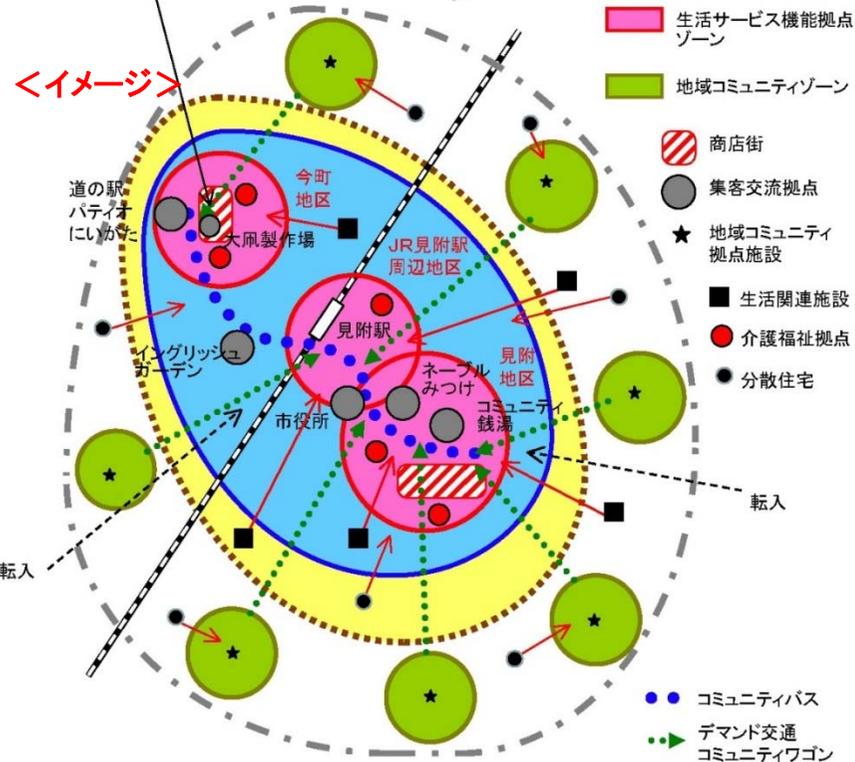


市街化区域

- ◆ 健康・医療・福祉のまちとしての機能の集約
- ◆ 快適歩行空間(通過交通の排除)(国交省)
- ◆ 賑わいの創出(中心市街地の再活性化)(国交省・経産省)
- ◆ コミュニティ内の移動空間及び移動方法の整備(国交省)



- ⇄ 住み替え促進策の具体化
- ⇄ 公共交通の再整備の促進策



| | |
|--|--|
| <p>【施策1】 コンパクトシティの形成、誘導</p> <p>インフラ整備・維持更新エリアの拡大抑制、生活サービスの集中、コミュニティの維持、効率的な土地利用</p> | <p>【施策2】 持続可能な集落地域づくり</p> <p>コミュニティ維持に向けた集落生活圏の土地利用計画と小さな拠点の整備</p> |
| <p>【施策3】 地域公共交通の再生</p> <p>各ゾーン間の円滑な移動を確保した公共交通等の整備</p> | <p>【施策4】 中心市街地の活性化</p> <p>商店街の活性化、まちの活力と賑わいの回復、出かける目的地の整備、交流拠点の整備</p> |
| <p>【施策5】 地域包括ケアシステムの構築</p> <p>自立生活の支援のもと、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができる体制を整備</p> | <p>【施策6】 総合的な住み替え施策の推進</p> <p>世代別のライフスタイルに応じた住居の住み替え、転居を誘発する住宅施策</p> |

モデルケースをベースに地域再生計画へ

都市部と村部が持続できる 健康都市の地域再生計画

| | |
|------|-----------|
| 作成主体 | 見附市 |
| 区 域 | 見附市の全域 |
| 計画期間 | H26～H31年度 |

【地域再生計画の概要】

少子超高齢・人口減少社会の中でも持続できるまちづくりを目的に、都市の集約と集落地域の存続を両立するため、公共交通、中心市街地活性化、地域包括ケア対策の確立、ライフスタイルに応じた住み替え等の施策を総合的に進めるもの。



見附市コミュニティバス
地域と市街地、交流拠点を結ぶ公共交通



ふるさとセンター
地域コミュニティ組織の活動拠点

◆背景

- ・少子超高齢・人口減少社会の到来
人口44,065人(H16)→41,835人(H26)→31,000人(H52)
高齢化の進展(28.1%(H26)→38.9%(H52))と生産年齢人口の減少(59.9%(H26)→51.4%(H52))
- ・地方都市の課題を解決するためには中心市街地活性化、公共交通の再生、医療・介護の確保、住宅施策等の総合施策が必要

◆目標

都市部も村部も持続できるための都市全体の集約化と地域単位のコミュニティの維持を可能とするまちづくりを目指す。

【数値目標】

- ・市域を用途に合わせてゾーン設定し誘導策を講ずる。H30までに100%
- ・コミュニティバス等による地域と中心市街地の交通網の再編
運行間隔 H30までに20分
- ・介護認定率 H31に18%以内、要介護4と5の入所待機者の解消
- ・その他



◆取組例

○地域コミュニティ拠点整備

平成26年12月に新規設立された「庄川平地区コミュニティ」の活動拠点となる「ふるさとセンター」を整備。
※1棟面積250㎡(旧庄川保育園建物の除却含む)

○公立老人保健施設増床

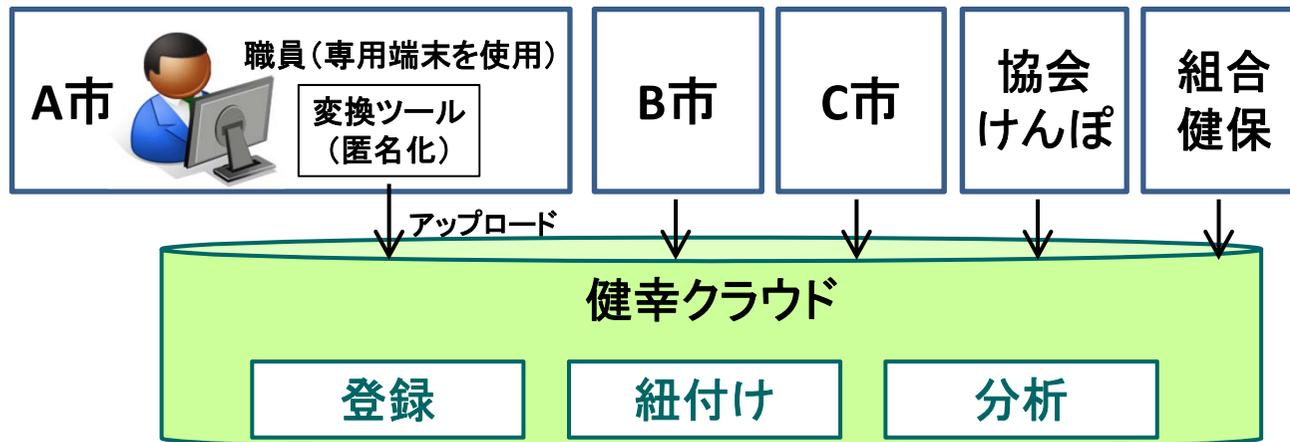
在宅介護の拠点となる老人保健施設「ケアプラザ見附」の通所リハ機能強化。定員拡大のための施設建設。
※通所リハビリ定員15人→25人へ

特区の成果 自治体共用型健幸クラウド

全国健康保険協会新潟支部と見附市が連携協定！

【健康とまちづくりを連関させる分析システム】

- ①初めて異なる保険者間の健診・医療レセプトデータ、介護保険のデータの一元化を実現
- ②健幸都市の構築度合いを示す健幸都市インデックスを開発
- ③多数の自治体が持続可能で活用できるEHRの運用モデル



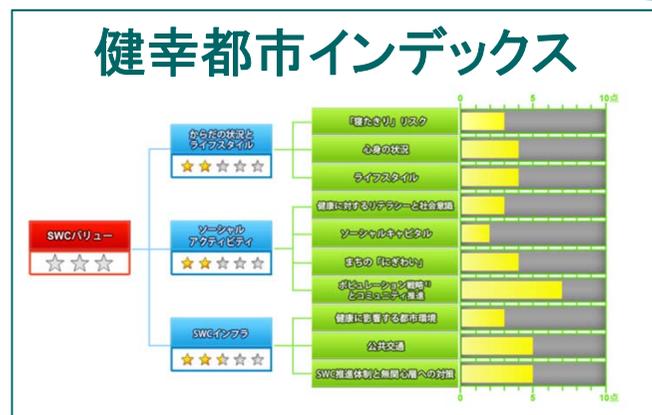
個人情報を匿名化

追加分析

他自治体も含めた全自治体データを用いたより詳細な分析

分析ツールを用いて筑波大学及び(株)つくばウェルネスリサーチ社が実施

アウトプット



標準分析レポート

- 現状分析
- 将来予測
- 施策効果シミュレーション

※今後の機能拡張も検討中

特区の成果 健幸都市インデックス

健幸クラウドにより自治体の政策進捗状況を評価
健康に関する医学的データに加えて、都市環境、コミュニティの活性度、ソーシャルキャピタルなどの総合的要因を網羅した分析により、健康政策の効果度合いを客観的に評価する指標

自治体の総合的な「健幸度」を6段階評価



科学的根拠に基づく客観的評価を地域住民にも分かりやすく表現することで、健康施策の効果度合いを共有。
★の数が多いほどまちの健幸度が高い。

総合的要因分析

38項目の総合的要因を網羅

得点化

28項目の個別得点化

SWCインデックス

効果の度合いを客観的に評価

新たな社会技術を目指す大規模社会実証 『健幸ポイントプロジェクト』 健康行動の拡大が地域振興へ！

H26年度から3か年事業 6市連携：見附市、伊達市、浦安市、大田原市、高石市、岡山市

健幸ポイントプロジェクトにご参加する皆様へ

参加のご案内

健幸ポイントプロジェクトって
なんですか？ →1ページへ

ポイントを貯めるには？
→2ページへ

ポイント付与
対象プログラムは？
→3ページへ

貯めたポイントは
何に交換できる？
→4ページへ

参加したいときの
手続き方法は？
→裏表紙へ

SWC6市連携 健幸ポイントプロジェクト

Q 健幸ポイントプロジェクトってなんですか？

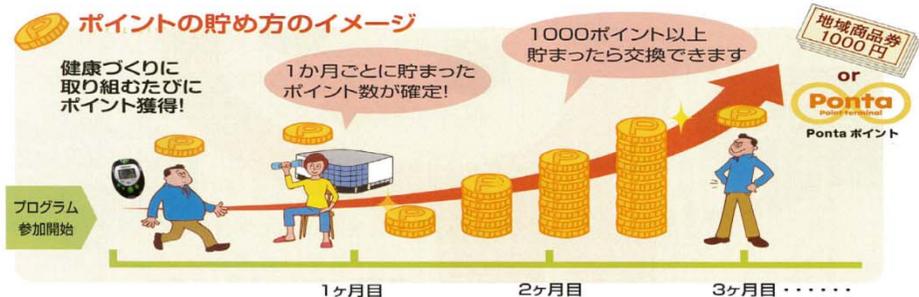
A 健康で幸せな毎日を長く続けていただくために
皆さんの健康づくり活動を応援するプロジェクトです。

運動に興味があるけど始められない方、やってみるけど長続きしない方、そもそも運動に関心がない方、こういった方々に運動をするきっかけとして頂くことを目的とした、日々の歩行や運動をすることでポイントが獲得できる仕組みです。

健幸長寿社会の実現を目指す取組みの一環として、運動を通じた健康づくりを応援します。

● 健康づくりに取り組むとポイントが貯まります。

- ・お住まいの市で提供されているプログラムに参加しながらポイントが貯めていきます。
⇒お住まいの市のプログラムについては3ページを参照ください。
- ・貯まったポイントは、地域商品券、社会貢献（寄付）、Pontaポイントに交換することができます。
⇒ポイント交換方法、交換内容等は4ページを参照ください。



● 見附市地域商品券コース

年度末に、ポイント状況に応じて商品券に交換されます。交換された商品券は、健幸ポイント運営事務局より送付いたします。

● 「ポンタ」ポイントコース

月ごとに、獲得した健幸ポイントがポンタポイントとして与えられます。

● 社会・地域貢献コース

年度末に、ポイント状況に応じて商品券に交換されます。交換された商品券が、学校や地域コミュニティなどの寄付先へ寄付されます。



SWCの実現のために

利便性を優先 → 健幸を理解し実践する広がり

ソーシャルキャピタルの高いまちへ

新しい価値観を享受

- 便利さだけを追求しすぎない生活
- 地域への貢献につながる自律
- 人との関わりを楽しむ気持ち

『健康施策』⇒『健幸』と『地域再生』

従来の健康施策 → まちづくりを通じた健幸の実現へ

| 年度 | 項目 | 説明 |
|---|-----------------------|---|
| H14～ | 健康運動教室の開始 | エビデンスの確認された中心的健康施策 |
| H16～ | いきいき健康づくり計画 | 食生活、生きがい、運動、検診の4本柱 |
| H18 | 見附市グランドデザイン策定 | 50年後のまちの将来像 |
| | 地域コミュニティ組織の再編開始 | 住民が主体の地域づくりへ |
| H21～ | SWC首長研究会の立上げ | 歩いて暮らせるまちづくりへの転換 『健幸』の概念 加盟9市⇒59区市町 |
| H23 | 地域活性化総合特区に指定 | まちづくりの実現へ全国7市、2団体が連携 |
| | 健幸関連の条例制定 | 健幸基本条例、歩こう条例、道路構造条例 |
| H25 | 特定地域再生計画策定 | 都市の集約化と地域の持続の基本方針 |
| | 健幸づくり推進計画策定 | 健幸施策の総合的計画 |
| H26～ | 地域活性化モデルケースに選定 | 少子・高齢社会に対応して都市が持続できるための政策パッケージモデルの実現 目標H30年度 |
| | 健幸ポイント社会実験の開始 | 国の支援による全国の6市との大規模社会実験(H26～28年) |
| 地域再生計画の認定(1/22)、地方版総合戦略の策定 ⇒ 地域再生戦略交付金の活用 32 | | |